

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第5号を下記のとおり発表したので送付します。

令和4年度病虫害発生予報第5号

令和4年8月2日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	並
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	並
	紋枯病	—	並
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	並
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	遅	少
	イチモンジセセリ	並	並
	コブノメイガ	—	やや少
	カメムシ類	—	多
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや多
モモ	モモハモグリガ	—	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	—	やや少
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病	—	並
	うどんこ病	—	やや少
	褐斑病	—	やや少
トマト	疫病	—	やや少
	葉かび病	並	やや少
ダイコン	軟腐病	並	やや少
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや少
野菜共通	アブラムシ類	—	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
	ハスモンヨトウ	—	<b>やや多</b>
キク	ハダニ類	—	<b>やや多</b>

## 1 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は38.9%で平年(43.9%)並であった。

イ. 7月21日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は3.3%で平年(16.7%)より低く、中部地帯は50.0%で平年(46.3%)並であった。

イ. 7月21日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (3) 紋枯病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. イネの茎数は、概ね平年並である。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は6.7%で平年(15.3%)より低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する可能性があるため、豪雨により浸冠水した圃場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は2.2%で平年（5.2%）より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

(6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年（0頭）並であった。

イ. 7月21～22日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、13頭で平年（14.0頭）並であった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は25.5%で平年（39.4%）より低く、すくい取り（20回振り）調査での成幼虫数は9.1頭で平年（36.6頭）より少なかった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 遅  
発生量 少

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における飛来は認めておらず、7月1～5半旬において平年(0.2頭)より少なかった。
- イ. 7月21～22日の巡回調査によると、圃場での発生は認めておらず、発生圃場率は平年(0.4%)より低かった。すくい取り(20回振り)調査でも発生を認めておらず、発生圃場率は平年(0.7%)より低かった。
- ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア. 圃場をよく観察し、要防除水準(成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上)を超える圃場では、直ちに防除を徹底する。
- イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

#### (9) イチモンジセセリ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並  
発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は2.2%で平年(2.8%)並であった。
- イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

#### (10) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月26～27日の巡回調査によると、発生圃場率は2.2%で平年(6.2%)より低かった。
- イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

#### (11) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は1354頭で平年(450.1頭)より多かった。また、真庭市の予察灯における7月1～5半旬の誘殺数は、620頭で平年(87.4頭)より多かった。
- イ. 7月20、21日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり89.2頭で平年(87.0頭)並であった。

- ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。
- 防除上の参考事項
- ア. 病害虫発生予察注意報第2号（8月2日発表）参照。

### (ダイズ)

#### (1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は501頭で、平年（315.3頭）より多かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

## 2 果 樹

### (モ モ)

#### (1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年（3.7頭）より少なかった。

イ. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（3.5%）より低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

#### (2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は4頭で、平年（20.6頭）より少なかった。

イ. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(34.5%)よりやや高かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は60.7%で平年(28.9%)より高かったが、発生程度は一部地域でのみ高かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で、平年(1.8%)並であった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 7月20日の県予察圃場での発病葉率は24.8%で平年(45.7%)より低かった。

イ. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は18.2%で平年(26.4%)よりやや低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 7月20日の県予察圃場での発病葉率は10.7%で平年(28.3%)より低かった。

イ. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は72.7%で平年(76.0%)並であった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月19日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月19日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(1.4%)並であった。

### 3 野菜

#### (キュウリ)

##### (1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は37.7%で、平年(42.8%)並であった。

イ. 7月19、20日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年(67.7%)並であった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

##### (2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は8.0%で、平年(28.8%)よりやや低かった。

イ. 7月19、20日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(41.6%)より低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

##### (3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は19.9%で平年(38.9%)よりやや低かった。

イ. 7月19、20日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年(43.8%)よりやや低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

#### (トマト)

(1) 疫 病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(4.3%)並であった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(15.9%)より低かった。

ウ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(33.2%)より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月20日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は0%で平年(24.0%)より低かった。

イ. 7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤への7月1~5半旬の飛来数は23頭で平年(78.0頭)より少なかった。

イ. 7月19、20日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が0%で平



年（36.4%）より低く、キュウリでは20%で平年（31.3%）よりやや低かった。

ウ．7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア．7月19、20日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での発生量は平年並であった。

イ．7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア．県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は501頭で、平年（315.3頭）より多かった。

イ．7月19、20日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ．7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

#### 4 花き類

##### (キ ク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア．7月19、20日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年（3.4%）よりやや高かった。

イ．7月28日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、 <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

